

ごんたと 大きな空

さむい ふゆが やってきました。

森の どうぶつたちは、どうみんするため、
たべものを いそがしく あつめています。

「はるまで たべられるよう、

たくさん 木のみを あつめなくっちゃ。」

りすの ごんたは はりきって「す」がある 木から
かけだしました。

ごんたが はりきっているのには、 りゆうが ふたつあります。

ひとつめの りゆうは、ことしは、さむくて あまり 木のみが そだたず、
とおくまで さがしに いかなければ ならないことです。

ふたつめの りゆうは ごんたの かぞくや きんじよの どうぶつが、みんな
びょうきや けがで くるしんでいる ことです。

やさしい ごんたは、かぞくだけでなく、ちかくにすむ



みんなの ために とおくまで 木のみを さがしに 出かけたのでした。

「一ぴきで とおくまで 行くのは、ちよっと こわいな。」

でも、ごんたは ゆうきを ふりしぼって とおくの 小川まで たどりつきました。

そこには、空までとどきそうな 大きな木が たっています。

そして、まわりには 見たこともないような きれいで おいしそうな木のみが

たくさん おちていたのです。

「やったあ！ これだけ あれば

きつと みんな、

ふゆを こせるよ。」

ごんたは おおよろこびで

木のみをあつめ、かかえました。

そのときです。

空が どんどん くらくなり、

つめたい「ひょう」が つよく ふつてきました。

ごんたは 思わず あつめた 木のみを おとしそうに

なりましたが、せいっぱいの ちからを こめて 木のみを かかえ、



まえに すすみました。

ひようは、ちいさな ごんたの からだを みるみる きずつけます。 おおあらしの中、ごんたは いまにも たおれそうに なりました。

そのとき、目のまえに 大きなあなが あらわれました。

ごんたは むちゆうで そのあなに にげこみ、あつめた 木のみを だきしめたまま、うごけなくなりました。

どれくらい じかんが たったことでしょう。ほほにあたる

あたたかい日のひかりと、そよそよとした 水のせせらぎの おとで

ごんたは 目を さましました。からだがいたむ中、外にでると、そこは きのう見た、大きな木の ねもとでした。

ごんたを まもってくれたかのように、大きな木は やさしく たっています。

ごんたは なにも言えずに ただ その木を ながめていました。

そこへ 空から 大きな とんびが おりてきました。

「おお、どうしたんじゃ。かわいそうに きずだらけじゃのう。

よし、わしが おまえの かぞくがいるところに つれていってやろう。」

そういうと、 とんびは ごんたを せなかにのせ 大空にとびたちました。



きのうのあらしが うそのように はれわたっています。
たいようの ひかりや、やわらかな かぜが、ごんたの
きずだらけの からだを なでていきます。
ごんたは ひよいと とんびのせなかから、
下にひろがる森を 見てみました。
それは、ごんたが 今までに 見てきた
なりよりも うつくしく見えました。(野村 宏行 作)

ごんたと大きな空

(低学年 3-(1))

(1) ねらい

身の回りにある、自然や芸術などの美しさに気づく心をはぐくむ。

(2) 資料の特質

仲間のために、命がけの冒険をする子リスのごんた。疲れはてた彼を嵐から守ってくれたのは、森を見守る大樹だった。小さな子リスの自己犠牲にも似た決意や、最後に子リスの命を優しく包み込み、守ってくれる大樹の存在から、大いなるものの存在を児童が感じられうように資料を作成した。

(3) 展開例

- 1 美しい音楽を聴いて、心を落ち着かせる。
- 2 資料「ごんたと大きな空」を読んで話し合う。
 - ①ひょうにうたれて、前に進むごんたの気持ちは、どんなか。
 - ・ぜったいに離さないぞ。
 - ②だまって木を見上げるごんたは、どんなことを思ったのか。
 - ・木さん、どうもありがとう。
 - ③空から森を見下ろして帰る時、ごんたはどんなことを考えたか。
 - ・きれいだなあ。
 - ・みんな、待っているだろうなあ。
- 3 身近な美しいものとのかわりについて、考える。
- 4 教師が美しいと思った写真をスライドショーで提示する。

(4) 指導上の留意点及び工夫

授業の後半では、子どもたちがこれまでに感じた「美しいもの」を話し合う。それぞれの思い出が多様に語られる、楽しい時間になるだろう。それをさらに充実させるために、どんな内容が子どもたちから出るか、あらかじめ類別して予想するとよい。例えば、「自然の景色」「音」「芸術」などである。それをもとに、「〇くんは、自然についてのことを発表したけど、同じような思いをした人はいますか。」など、話し合いを整理していくのである。考えてほしいことがでないときは、教師から投げかけ、子どもたちの視野を広げていくとよい。

〔本文イラストは酒井桃華による〕